

患者図書室 “いきいきの森” だより

豆まきの豆知識

鬼は邪気や厄の象徴とされ、かつてより、災害、病、飢饉など人間の想像を超えた恐ろしい出来事は鬼の仕業であると考えられてきました。「隠（おん）」がその語源とされ、古くは姿の見えないもの、この世ならざる存在でしたが、雷神や仏教の羅刹（らせつ）などのイメージが混じり、現在の鬼の姿になったといわれています。鬼を追い払う豆は、炒った大豆を使います。拾い忘れた豆から芽が出ると不吉であるとされているためです。また、地方によっては、殻つき落花生をまくところや、「鬼は外」ではなく「鬼は内」というところ等、豆まきにも色々なバリエーションがあるようです。

1 月の貸出テーマランキング

1 位 免疫

『患者さんとスタッフのためのリウマチ・膠原病 ABC』

『新版 リウマチ』他

2 位 脳・神経系

『やさしいパーキンソン病の自己管理』他

3 位 胃腸

『胃腸手術後の食事』他



図書の紹介

歳を取るなかで誰もがかかりうる病気、認知症。自分がかかることもあれば、周りがかかることで直面することもあるでしょう。そうしたときに、認知症をどう受け止めるか—今月はそのヒントになる二冊をご紹介します。是非ご覧になって下さい。

『ペコロスの母の忘れもの』岡野雄一 / 著

『ペコロスの母に会いに行く』『ペコロスの母の玉手箱』『ペコロスの母の贈り物』に続く、第 4 弾となるエッセイ漫画。亡くなった母のつぶやきが切なく心に響くハートウォームストーリー。『週刊朝日』などに掲載した 84 話を収録。



『認知症の人を理解したいと思ったとき読む本』内門大丈 / 監修

「いったい何を考えているのだろう」—接する家族は、不思議だったり、悲しかったり、腹がたつたりの毎日。しかし“不可解な行動”の理由がわかれば、やさしい気持ちになれるし、対応の仕方も変えられる。対応の仕方は症状の改善にも影響する。

